

アルブミン製剤の使用量について

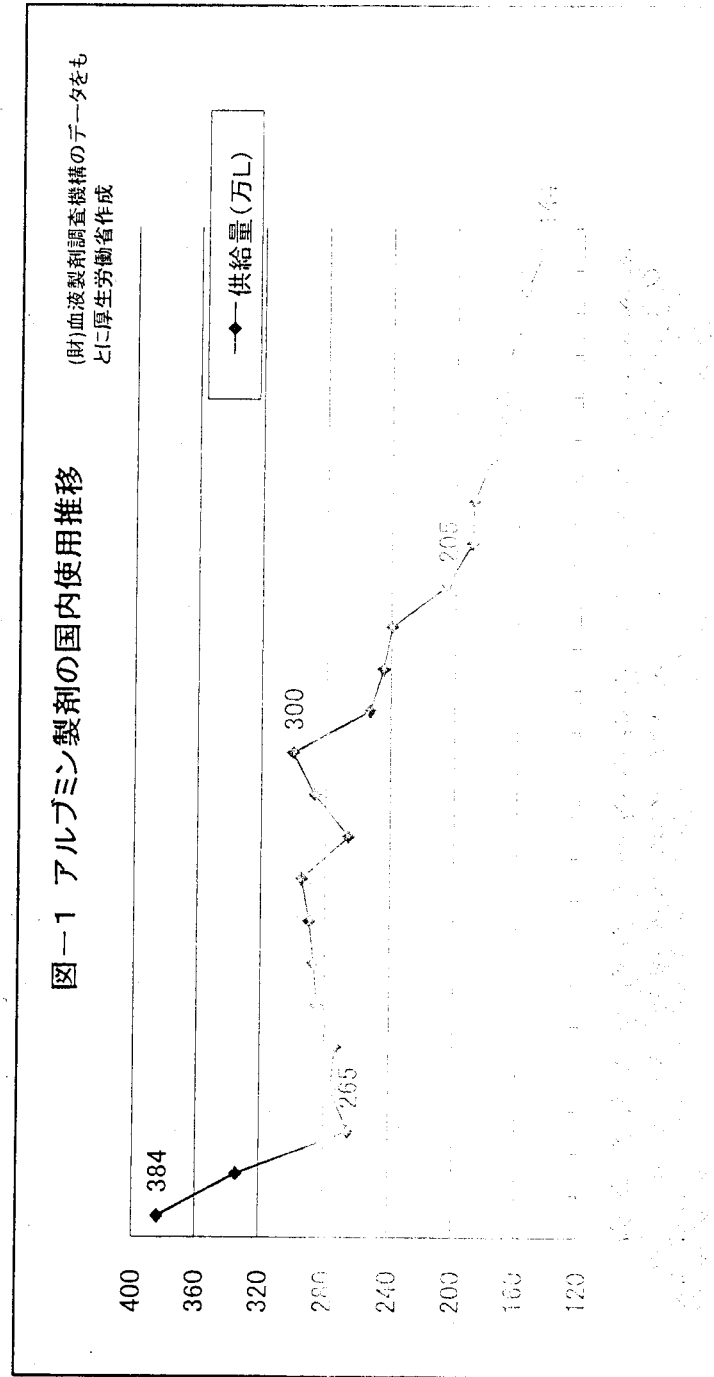
【現 状】

- 1980年代前半、わが国のアルブミン製剤使用量は世界生産量の1/3にも達し、国際的な批判を浴びていたところ。その後、血液製剤適正使用ガイドラインの作成等、医療機関における適正使用を推進したことにより、わが国のアルブミン製剤の使用量は漸減するとともに、同製剤の国内自給率は大幅に上昇した(図-1 及び 図-4)。
- しかしながら、都道府県別の使用量(図-2及び図-3:平成20年度調査データ)を見ると、1000床あたりの使用量をもっとも多い県ともっとも少ない県の格差は約5.4倍と依然大きく、さらなる適正使用が可能であると思料される。
- さらに、平成19年までは適正使用推進の効果もあり年々上昇していたアルブミン製剤の国内自給率が、平成20年においては20数年ぶりに低下傾向となったところ(図-4)。

【論 点】

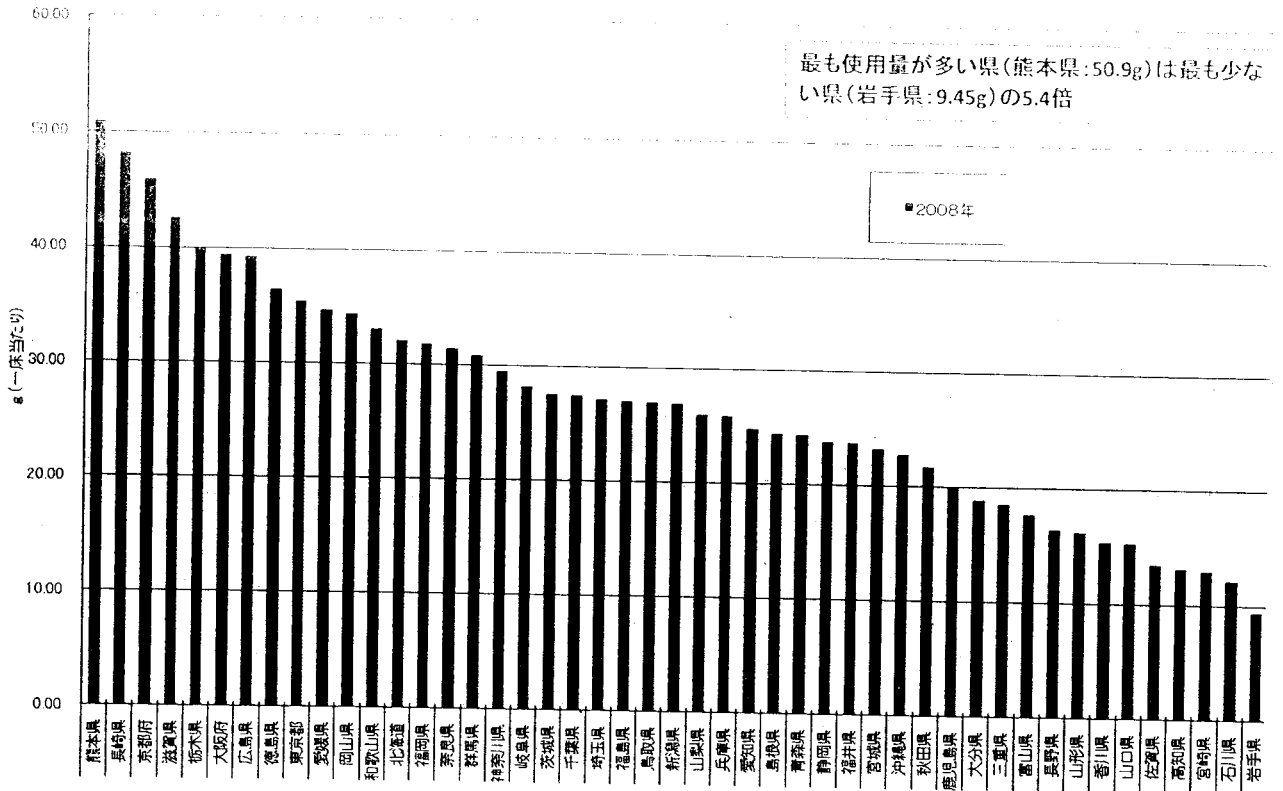
アルブミン製剤の適正使用を推進しつつ、国内自給率を高めるための具体的な方策は考えられないか。

- ◎ 例えば、インフォームド・コンセントの徹底などの使用適正化方策により国内自給率の向上が図れないか。



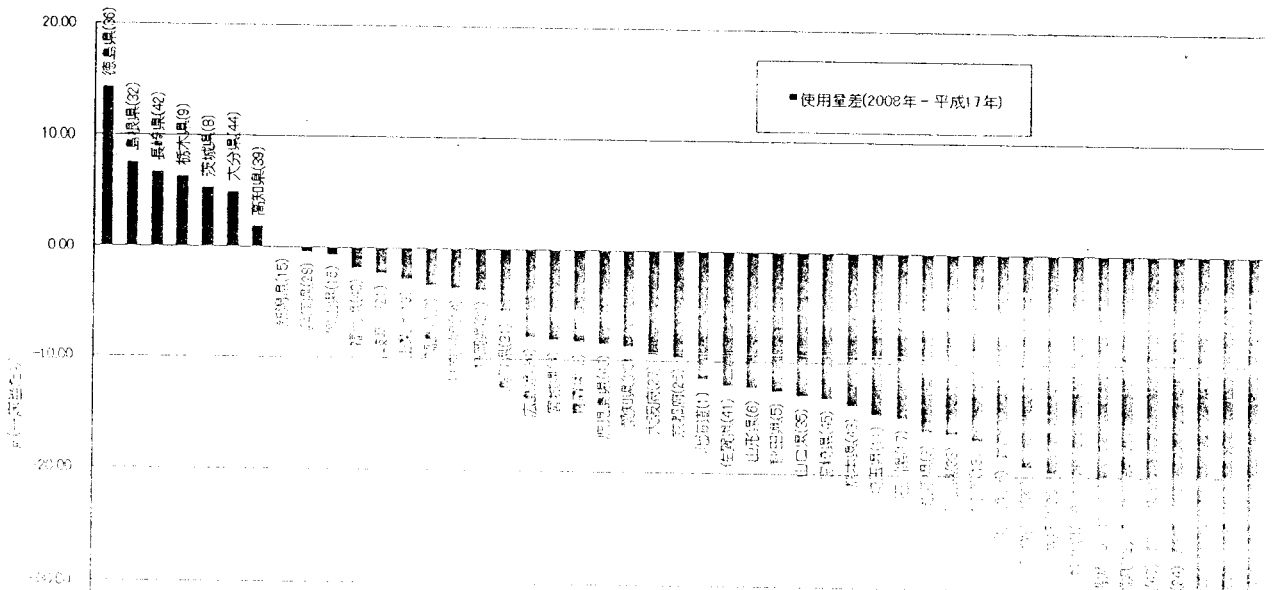
図一 2 都道府県別アルブミン製剤使用量(1床当たり)

2008年 アルブミン製剤使用量の多い順



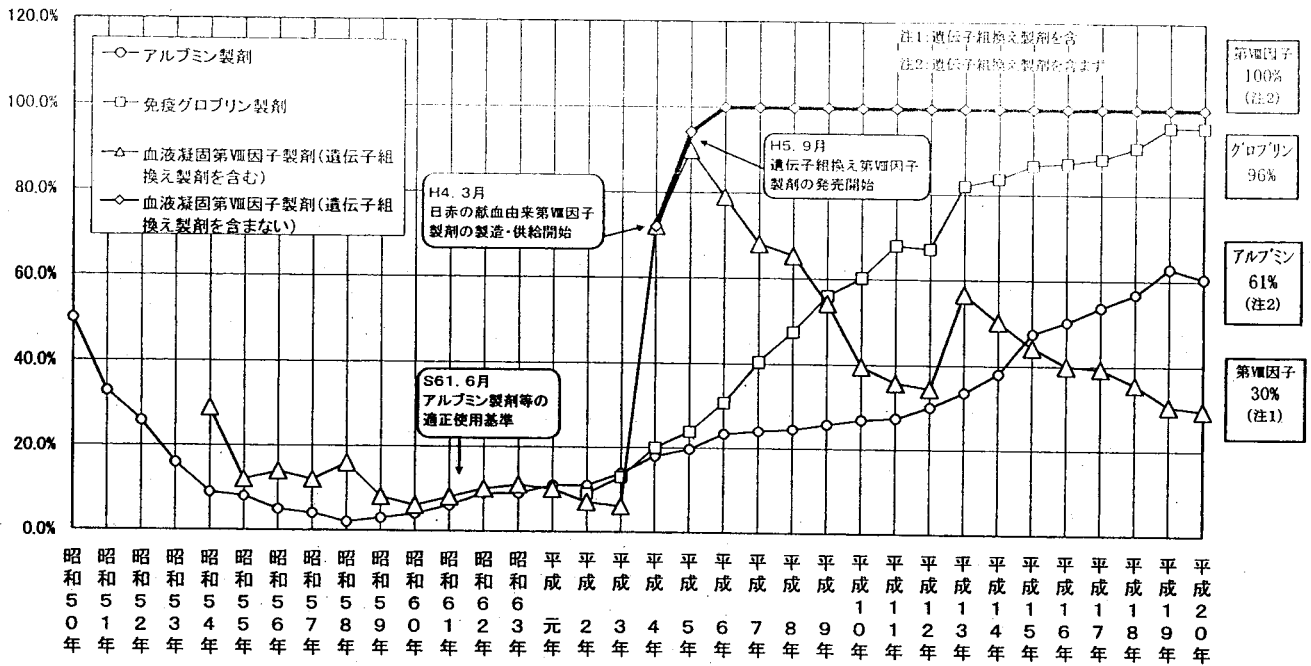
図一 3 都道府県別アルブミン製剤使用量(1床当たり増減)

アルブミン製剤使用量 年度比較-増減



自給率

図4 血漿分画製剤の自給率(年次:供給量ベース)の推移



平成9年以前は年次、平成10年以降は年度